

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	校内の体制づくり 職員の専門性の向上
【学校、学年】	高等学校 【 校内での取組 】
【状況、様子 等】	<p>○校内体制の状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H19.4.1「特別支援教育の推進について」（文科省通知文）を受け、特別支援教育の研修等に参加し、少しずつ校内で体制づくりを行ってきた。 ・始めは、進路指導部長が中心となって、生徒支援（就労支援を含めて）を行っていたが、その後「特別教育支援部」ができた。（現在は「教育支援部」に名称変更）
対応・工夫） 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<p>○ 教育支援部の運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒支援会議」「教育支援会議」「教育相談」「関係機関との連絡・調整」「研修復講」「カウンセリング」「基礎学力向上プロジェクト」などを行っている。 ・毎年、指導支援についてのマニュアルを作成。一般的な特別支援教育の基礎に関することから校内で個別対応が必要になる生徒の情報まで記載し、ナンバリングして全職員（事務職、バス運転手等）に配布し、職員がすぐに確認できるようにしている。毎年検討し、ブラッシュアップしている。 <p>○教師の姿が生徒の行動のモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教師の姿（生徒へのかかわり方等）が生徒の行動のモデルになる」を合言葉に、生徒への対応について機会を捉えて校内で考えるようにしている。 <p>○ 合理的配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの「手厚い支援」を望まれる保護者もいるが、本人が自分の人生を切り開いていく上での過不足のない支援とはどのようなことかなどについて、丁寧に話しながら決定する。 ・卒業後に利用できる行政サービス（手帳保持者）や関係機関の紹介を行っている。 <p>○ 「引き算の支援」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「引き算の支援」をキーワードにして、支援方法を考えている。 ・支援ありきではなく、生徒自身が困難さと向き合い、よりよく対処できる方策を共に考え、日常的に実践できるよう指導することで、自信につなげている。 ・例：「今の気持ちを信号機の色（「青はできる」「黄色はちょっと不安」「赤はできない」）で伝える約束をする」、「自分なりのクールダウンの方法（お守りを握るなど）を決めておく」。
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は、教師間で「あれはできるのに、これはできない」という話が多かったが、「どうしてこういう態度をとっているのか？」という行動の理由を考える視点での会話が増えてきた。 ・生徒同士が自然に助け合う姿が多くみられるようになった。（校内では「ナチュラルサポーター」と呼んでいる） ・生徒の変容によって教師も『取り組んでよかった』という思いを抱き、双方が達成感や満足感を共有することで良好な集団づくりにつながっている。また、その変化が自然に保護者にも伝わり、さらなる好循環を生み出している。